

令和8年度 沼津市立沼津高等学校第1回学校運営協議会 議事録

1 日時

令和8年5月30日（土） 10:00～11:30

2 場所

本校第3会議室

3 参加者（敬称略）

(1) 学校運営協議会委員（10人）

浅倉博文、石井昌實、中川恵、芝厚、大塚昌己、齋藤明広、柴崎未希子、鈴木素子、永谷研一、伊藤直美（校長）

(2) 学校関係者（5人）

松本新吾（副校長）、岩田明可（高校教頭）、丸山真一（中等部教頭）、鈴木章宏（事務長）

(3) 欠席者（1人）

山下巖（学校運営協議会委員）

4 内容

(1) 令和8年度沼津市立沼津高等学校学校経営計画について（説明：校長）

(2) 教育活動（進路状況）について（説明：副校長、中高教頭）

5 意見交換（要約）

- ・中学校の授業時数1050時間の考え方、行事の位置付け、国語・英語・数学の授業時数を増やしている理由、探究学習の位置付けは。

→行事は学校行事の時数として計上。

中高で週30時間をそろえるため、国・英・数を各学年35時間増やしている。

探究は総合的な学習の時間を中心に、前期は地域・キャリア・平和学習、後期は個人探究を実施。

- ・教員の勤務と働き方改革について、高校教員の勤務時間に部活動は含まれるか。また、週30時間の授業の課題は。

→部活動は勤務時間に含まれる。部活動により長時間勤務となり、勤務時間との矛盾が課題。

授業時数や時間割の見直しを進めているが、3集団授業などとの兼ね合いで調整が難しい状況。

- ・いじめの実態把握やアンケートはどうなっているか。

→中等部では市教育委員会が年3回アンケートを実施しているが、公表はしていない。

校内の「いじめ防止対策委員会」で事案ごとに組織的な対応をしている。

- ・SEL（社会性と情動の学習）の活用について、感情を否定せず適切に理解する仕組みが重要。SELは普段の先生方の見取りとの関係があり、他者の良さを認め合う活動やSELを取り入れたLHRの充実で、自己理解・他者理解を深め、いじめ予防につながるなどの提案があった。
- ・学校から市教育委員会へ提出した上申への反応はどうだったか。

→学校の考えには理解が示され、前向きに検討する姿勢は得られたが、財政面も含め今後具体的に協議していくこととなった。

- ・以前より市教育委員会との連携が弱くなっているのではないかと。

→教育企画課と今後の検討を進めることで合意しており、具体的な内容は今後報告予定。

- ・学校の魅力について委員から次のような意見が出された。

探究学習や中高一貫教育という特色をさらに伸ばす。

SNS など積極的な情報発信を続ける。

地域への愛着を育む教育を充実させる。

スクールソーシャルワーカーなど外部人材も活用する。

保護者への学校方針の発信を充実させる。

市立沼津・中等部の良さを子供とともに実感している。

「ラーニングコンパス」を活用した6年間一貫の探究教育を学校の強みとして発信する。